

# 修学旅行で大学生生活をプチ体験

教科・領域 総合的な学習の時間

岩国市立周東中学校 3 学年

## キャリア教育の観点

この取組は、修学旅行の班別自主研修の一環として、京都市内の大学を調べて訪問し、学生食堂で昼食をとることで、上級学校への興味・関心を高め、20歳前後の自分の将来に目を向けさせようという活動です。

【人間関係形成・社会形成能力】【キャリアプランニング能力】

## 活動のねらい

毎年、本校では修学旅行の2日目に京都市内の班別自主研修を実施している。京都市内には多くの大学のキャンパスがあり、たくさんの学生が生活している。本校の生徒は、高等学校の体験入学や学校説明会に参加する機会には恵まれているが、大学について調べたり訪れたりする機会ほとんどない。京都市内を各班で活動する班別自主研修の機会に、負担を増やすことなく生徒のキャリア発達を促す活動を体験させたいと考えた。



京都市内の大学の学食は、概ね一般にも開放されており、ある程度まとまった人数であっても事前の許可を得れば使用することが可能である。例年、班別自主研修時の昼食については、各班で資料を持ち寄り、事前に食事をする店を決めていたが、本年度については、京都市内にどのような大学がどこにあるのかを知り、自分たちの研修コースとすり合せながら訪問大学を決め、各大学で大学の雰囲気を感じながら班ごとに昼食をとる活動を取り入れることにした。

この活動の主なねらいは次のとおりである。

- ① 班のメンバーと協力し、研修コースを作成する。【人間関係形成・社会形成能力】
- ② 京都市内の大学について知り、実際に訪問し雰囲気を肌で感じることによって、上級学校への興味・関心を高める。【キャリアプランニング能力】

## 事前の学習

訪問大学を決めるための資料については、インターネット上に様々なHPがあり、「京都の大学」で検索すれば一覧にまとめられたものが数多く出てくる。それをプリントアウトし、資料として各班に配付した。生徒はその資料を使っていくつかの大学を絞り込み、更に詳しい資料を検索し、研修コースを念頭に置きながら訪問校を決定していった。

訪問校決定後は、それを学年で集約し、各大学に電話連絡をさせ、学食使用の許可を得た。大学によっては混雑緩和のため、時間帯を指定されたところや、事前に申請書を送付する必要があるところもあり、それによって計画を修正する必要が生じた班もあった。生徒が訪問した大学は以下のとおりである。

- ・ 京都大学（吉田キャンパス）京都市左京区吉田本町
- ・ 同志社大学（今出川キャンパス）京都市上京区今出川通烏丸東入
- ・ 立命館大学（衣笠キャンパス）京都市北区等持院北町
- ・ 龍谷大学（大宮キャンパス）京都市下京区七条通大宮東入大工町

## 当日の活動

当日は天候にも恵まれ、各班予定通り研修に出発し、全班無事に帰宿した。その中で、多くの生徒が大学の雰囲気を感じ、プラスのイメージをもって研修を終えていた。生徒の感想をいくつか紹介する。

- ・ 初めて大学の中に入りました。予想以上に大きくそして予想以上に人が多かったです。学食は種類が多く安かったです。すごく大きなパフェがあって、びっくりしました。
- ・ 同志社大学に行きました。安さ・量・味、3つともすごかったです。学食もカッコイイ感じでした。大人気らしく、大学生より一般人のほうが多かった気がします。
- ・ 私たちの班は昼食を京大で食べました。大学にはたくさんの学生がいて中学校や高校とは雰囲気がかなり違いました。自分は将来勉強して京大に入って、ここで勉強したいと思いました。



## 考察・課題

これまで昼食場所を決めるのに使っていた時間をそっくり充てて活動することができ、様々な場所に点在する大学の中から興味のある大学を選び、研修コースを考慮して訪問し、食事も安く済ませることができる。この活動は、まず、既存の活動を生かしながら無理なく取り組める点で有意義であった。また、生徒も予想以上に大学生生活に興味・関心をもって活動を終えた者が多かった。

課題としては、学習を深める部分がどうしても足りなくなる点が挙げられる。雰囲気を味わい、大学への思いをもつこともできた。しかし、大学の職員や学生に直接話を聞いたりすることによって、大学での学びや学生生活についてもっと掘り下げることができればさらに理想的である。残念ながら、一日限りの班別自主研修の中で、その時間を捻出することは難しい。限られた時間の中で、ねらいを絞ってさらに効果的な活動を仕組むことが必要であると考えられる。

## 全体計画との関連

### 平成 25 年度キャリア教育全体計画

#### 学校教育目標

夢や希望をもち、自分らしい生き方を実現していく生徒の育成

#### 平成 25 年度キャリア教育の中心課題

- ◇実践の継続・深化…焦点化（自己理解を踏まえた人間関係形成能力の育成）・日常化（日々の授業の中で）・総合化（効果的な総合単元化）・系統化（3年間の系統的な指導）の継続・深化
- ◇個に応じたキャリア教育の推進…進路相談・個別指導の拡充
- ◇家庭・地域との連携…家庭・地域の教育力を活用したキャリア教育の推進

#### 各学年の指導目標

1 学年	2 学年	3 学年
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のよさや個性を理解し、他者を尊重する態度を身につけさせる。</li> <li>・集団の一員としての役割を自覚し、責任を果たそうとする態度を身につけさせる。</li> <li>・将来の夢やあこがれを抱かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の言動が他者に及ぼす影響について理解させ、社会の一員としての自覚もたせる。</li> <li>・将来の夢を達成する上での現実の問題について考え解決しようとする態度を身につけさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己と他者の個性を尊重し、円滑な人間関係を築く力を身につけさせる。</li> <li>・具体的な将来設計を描き、達成のために何が必要なのかを考え、実行する態度を身につけさせる。</li> </ul>

#### 各教科・領域等における指導内容

各教科等	教科	道徳	特別活動		総合的な学習	保護者・地域等との連携その他
			学級活動	学校行事・その他		
人間関係形成能力・社会形成能力	協働活動を推進し、コミュニケーション能力の向上、社会参画についての理解を図る。	人間尊重の精神を基盤に他を思いやる心をもち、人間的交わりを深めようとする心情を育てる。	学級の組織づくりや仕事の分担処理などの活動を通して、社会の一員としての役割を学ばせる。	教師と生徒および生徒相互の人的な触れ合いや信頼関係を経験することによって、他者との関わり方のスキルを身につけさせる。	<u>異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重する気持ちを養う。</u> <u>互いの長を活かし、協同して課題を解決することができるようにする。</u>	地域を舞台にした生徒の活動の場をより多く設定し、「社会性」を育成する。
自己理解能力・自己管理能力	自己理解の深化と自主性・自律性の向上を図る。	自分を見つめ、自分の良さを活かし、さらに伸ばしていくために何事にも前向きに取り組もうとする実践意欲を育てる。	学級での自分の役割を自覚し、責任をもって主体的に行動する態度を育てる。	様々な行事に積極的に参加し楽しむことで、生涯にわたり、文化や芸術に親しむための豊かな情操を涵養する。	自らの生活の在り方を見直し、日常的に実践する。複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えをもてるようにする。	家庭との連携を深めながら生徒のよりよい生活習慣の定着を図る。
課題対応能力	情報を理解し、選択、処理を適切に行える力を育成する。	自らの可能性を信じ、目標や理想に向かってあきらめずに計画的に最後までやりとげようとする態度を育てる。	学級や学校における生活上の諸問題を解決するための方策を考え、多様な集団の生活の向上を図ろうとする態度を育てる。	前年度計画の見直しと課題解決のための立案を行うことによって計画実行力を養い課題解決能力を育む。	目的に応じて手段を選択し、情報を収集できるようにする。目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動できるようにする。	地域社会においてスムーズな活動を行うために、自分の活動の方向性を工夫しながら定めることができるようにする。
キャリアプランニング能力	働くことを意識しながら、学び、考え、実践する力を育成する。	自分の目標を目指し、自己に適したプランを考え、誠実に実行していく態度を育てる。	学ぶことと働くことの意義を理解させ、望ましい勤労観・職業観の形成を図る。	ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験を通して、自ら果たすべき社会的役割について考えることができるようにさせる。	<u>職場体験学習など職業や進路にかかわる啓発的な体験を通して、自分の進路について具体的に考え学習や生活に生かそうとする態度を育成する。</u>	小・中・高の連携を図り、系統立てた学習を進めることによって将来の目標を明確にさせる。

